

小児膀胱尿道鏡説明書および承諾書

患者氏名： 殿

1. 病名：

2. 現在の病状

造影レントゲン写真などで尿路（尿の通り道：腎、尿管、膀胱、尿道）に解剖学的な異常が疑われます。

- 膀胱と尿管の接合部の逆流防止機構がうまく働いていないため、膀胱の尿が腎に逆流している。
- 尿路に狭いところがあるため、尿がうまく流れず腎や尿管がはれている。
- 造影レントゲン写真で尿路のかたちが普通とやや異なるようにみえる。
- その他

3. 検査（手術）の必要性・目的

- 造影レントゲン写真や CT という検査だけでは情報量が必ずしも十分でなく、腎・尿路疾患の確定診断にいたらないことがあります。
- 膀胱や尿道の異常（後部尿道弁、尿道狭窄など）が原因となって、排尿の異常、尿路感染症、膀胱尿管逆流症などのさまざまな問題が発生することがあります。
- 膀胱尿道鏡検査により、膀胱や尿道の異常の有無を検査することが可能です。

4. 検査（手術）の方法

- 1) 検査（手術）予定日：令和 年 月 日、
手術時間（約 時間）
- 2) 予定検査（手術）：膀胱尿道鏡
- 3) 麻酔方法：全身麻酔
- 4) 手術の方法とその特徴

- ・2～5 mm のとても細い内視鏡を尿道から入れ、尿道や膀胱を観察します。尿道に狭窄（狭い部分があること）や異常な弁状構造を認めた場合には、その場で内視鏡的に切開することもあります。
- ・尿管との位置関係を確認するため、尿管に細いカテーテルを挿入し、腎・尿管を造影することがあります。
- ・また、必要に応じて、膀胱造影、膣造影を行うことがあります
- ・検査（手術）後、尿道にカテーテル（くだ）を入れることがあります。

5. 検査（手術）の合併症

- 1) 血尿、出血、排尿時痛：いずれも一時的であり、しだいに良くなります。
- 2) 発熱、感染（特に腎盂腎炎）：予防的に抗生剤を使用します。
- 3) 全身麻酔と関連する合併症：上気道炎・肺炎など。

6. 通常は発生しないが起こりうる重大な合併症

- 1) 膀胱・尿道損傷：まれに内視鏡挿入時や切開時に膀胱や尿道を傷つけてしまうことがあります。軽症の場合にはそのまま自然に治癒しますが、非常にまれに尿道にカテーテルを留置し、しばらく膀胱や尿道を安静にすることがあります。
- 2) 尿路の狭窄：まれにしばらくしてから、切開した部分やその他の尿路に狭窄が発生する可能性があります。必要があれば後日、再度手術します。

7. 検査（手術）後の経過

- ・手術後すぐは飲水や食事はできません。こちらから指示があるまでお待ち下さい。
- ・点滴は1～2日で抜きます。
- ・尿道に留置したカテーテルは術後1～2日で抜きますが、カテーテルを抜く時期は、状況により変更される場合があります。

8. 特記事項

*上記内容に関して説明を受け、質問する機会があり、理解された場合には、下記に本人、または代諾者の署名あるいは記名・捺印をお願いします。

*上記内容に関する説明が理解できない場合には、主治医にその旨申し出てさらに説明を受けるなどして、十分に理解されたうえで、署名あるいは記名・捺印を行って下さい。

*手術を承諾した後であっても、手術前であれば、いつでも、すでに行った承諾を撤回すると共に、その他の治療方法を選択することが可能です。

*治療法につき不明な点や心配なことがありましたら、いつでも主治医にご相談下さい。

旭川医科大学病院 説明場所_____

説明日時 令和 年 月 日 時 分 ~ 時 分

説明者 職名 泌尿器科医師

署名または記名・捺印_____ 印

患者の署名または記名・捺印_____ 印

住所_____

代諾者の署名または記名・捺印_____ 印

続柄_____

住所_____

同席者署名または記名・捺印_____ 印

続柄_____